

ゼロエミッション船特集によせて

執行役員 技術研究所長 藤浪幸仁

ClassNK技報No.5「ゼロエミッション船」の特集に際してご挨拶申し上げます。

グローバルでの脱炭素化機運の高まりもあり、日本も2050年迄にGHG排出量実質ゼロを目指す方針を発表し、2021年4月の気候変動サミットでは、2030年度にGHG排出量を2013年比マイナス46%とする方針を打ち出すなど取組みを加速させています。

外航海運ではIMO主導で設定されたGHG削減目標のもと、規制検討・導入が進められてきましたが、2021年4月以降、各国から目標引き上げが提言されました。

これらの状況に対して、本会では2021年10月に組織改編を行い、GHG業務に関する事業戦略の立案等、統括的な管理を実施するために「ゼロエミトランジションセンター」、ならびに国際条約等への対応をはじめとした海運GHG削減という顧客ニーズに一元化して対応するために「GHG部」を創設いたしました。

これらを中心に組織が一丸となって、カーボンニュートラルの支援に取組み、皆様の事業拡大に貢献してまいります。

一方で、技術サービスの拡充を図るための技術研究開発や実証調査等を着実に進めております。本年度には新たな研究開発ロードマップを策定し、社会・環境・安全を研究重点領域として、海事業界各社、専門研究機関ならびに大学等と積極的に共同研究を計画、実施しております。

ClassNK技報では、このような連携を通じて開発された技術成果や知見をはじめ、本会の技術研究活動や国際条約の動向等を掲載しております。

前号のClassNK技報 No.4では、「自動運航」を特集とし、共同研究者各位より自動運航システムのリスク評価やシミュレーションシステムの開発等について寄稿いただきました。

本技報No.5では「ゼロエミッション船」を特集とし、カーボンニュートラルに向けた共同技術開発や次世代環境船舶開発センターの取組み等に関する寄稿をいただいております。

本会は今後も社会や業界のニーズに応えた技術研究に積極的に取組み、環境や安全に関する課題の解決を支援する技術ツールの開発や研究開発成果の公表等によって、グローバルな社会的貢献の実現を図ってまいります。

今後とも皆様からの一層のご指導とご支援をお願い申し上げます。